

|             |
|-------------|
| <b>国語表現</b> |
|-------------|

|       |   |     |   |       |      |
|-------|---|-----|---|-------|------|
| 教 科   | 国語                                      | 単位数 | 2 | 学科・学年 | 全科3年 |
| 使用教科書 | 国語表現(大修館書店)                             |     |   |       |      |
| 副教材等  | 五訂版 常用漢字オールクリア(尚文出版)、進路マップマナトレ(Benesse) |     |   |       |      |

### 「国語表現」の到達目標

- (1) 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。
- (2) 「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、表現のしかたや構成、展開を工夫する力、「話すこと・聞くこと」において、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫する力を養う。
- (3) 表記の決まりを意識し、正しく書こうとする態度、わかりやすく正確に文章で説明しようとする態度説得力を高めた小論文を書こうとする態度を養う。

#### 1. 評価の観点の趣旨と方法

|          | 知識・技能(技術)   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|----------|---|---|---|
| 評価の観点の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしている。</li> <li>・言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身につけている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、表現のしかたや構成、展開を工夫する力、を身につけている。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」において、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫する力を身につけている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表記の決まりを意識し、正しく書こうとしている。</li> <li>・わかりやすく正確に文章で説明しようとしている。</li> <li>・説得力を高めた小論文を書こうとしている。</li> </ul> |
| 評価の方法    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回の定期考査</li> <li>・長期休業中に出題される課題及び休業あけの宿題テスト</li> <li>・漢字の小テスト</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回の定期考査</li> <li>・長期休業中に出題される課題及び休業あけの宿題テスト</li> <li>・全体発表</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での取り組み状況</li> <li>・ワークシートの記述内容</li> <li>・課題等の提出状況</li> </ul>                                     |



|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| <p>④志望理由を書こう</p> <p>⑤自己推薦書や学修計画書を書く</p> <p>⑥面接にチャレンジ</p> | <p>・書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。</p> <p>・書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。</p> <p>・話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解して使っている。</p> | <p>的確に説明するなど、表現のしかたを工夫している。</p> <p>・目的や意図に応じて、志望先と自分に関わる事柄の中から適切な題材を集め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>・自分の考えを明確にし、根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、表現のしかたを工夫している。</p> <p>・目的や意図に応じて、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>・自分の思いや考えについて、文章の種類を選んで書いている。</p> <p>・相手の反応に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。</p> <p>・面接の場で自分のことを伝えたり、それらを聞いて批評したりしている。</p> | <p>・情報を調べて集め、説得力のある志望理由を書くことに興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>・文書を書くときの留意点や、より説得力のある書類を書くことに興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>・面接の留意点や面接での言葉遣いについて興味をもち、意欲的に自己評価や相互評価に取り組もうとしている。</p> |
| <p>5 メディアを駆使する</p> <p>①通信文を書き分ける</p> <p>②電話を使いこなす</p>    | <p>・書き言葉の特徴や役割、表現の特色、通信文ごとの形式の違いについて理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。</p> <p>・話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応</p>   | <p>・自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現のしかたを工夫している。</p> <p>・相手の反応に応じて言葉を選んだり、電話におけるマナーを意識したりとりを工夫したりするな</p>  | <p>・さまざまな通信文の使い分けや、手紙の書き方に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>・電話での効果的なやりとりのしかたに興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p>   |

|  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| <p>③電子メールを活用しよう</p>  | <p>じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。</p> <p>・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。</p> | <p>ど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。</p> <p>・電子メールの特徴を理解し、注意点や適切な表現のしかたを意識して電子メールを送っている。</p> | <p>・議論やワークシートへの書き込み、課題の提出を通して、電子メールの特徴や活用法について理解しようとしている。</p>       |
| <p>【第2部 表現を楽しむ】<br/>*魅力的なポスターを作ろう</p>                          | <p>・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p>             | <p>・目的や意図に応じて、志望先と自分に関わる事柄の中から適切な題材を集め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。</p>              | <p>・読み手に対して自分の考えが効果的に伝わるように書かれているかを吟味し、自分の文章の特長や課題を捉えなおそうとしている。</p> |
| <p>1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、「思考・判断・表現」を重視し総合的に判断して決定します。</p> |   |   |   |

### 3. 学習の計画と評価の観点

| 学期      | 月  | 学習内容   | 学習のねらい  | 評価の観点 |       |   | 考查範囲          |
|---------|--|--|---|-------|-------|---|---------------|
|         |  |  |   | 知・技   | 思・判・表 | 主 |               |
| 1<br>学期 | 4  | 【第1部 表現力を培う】<br>1 言葉と出会う<br>①相手に応じた言葉遣い<br>・敬語を使い分ける             | ・相手や場面によってふさわしい言葉遣いを身につけ、言葉のニュアンスを意識し、尊敬語、謙譲語、丁寧語を適切に使いこなす。                               | ○     |       | ○ | 中間<br>考查      |
|         | 5<br>6                                   | 4 自己PRと面接<br>①自分を見つめて<br>②効果的な自己PR                               | ・過去や現在をしっかりと見つめ、自分はどんな人間なのかを考える。<br>・自分の魅力や特長をわかりやすく印象的に伝える練習をする。                         | ○     | ○     | ○ |               |
|         | 6  | 4 自己PRと面接<br>③将来の自分を考えよう<br>【表現への扉】<br>働く人の姿／なりたい<br>「モデル」を見つけよう | ・文章を読み、自分の夢に近づく方法や働く意味について考えを深めたり広げたりし、自分自身を見つめる。   |       | ○     | ○ | 中間<br>考查      |
|         | 7  | 4 自己PRと面接<br>④志望理由を書こう<br>⑤自己推薦書や<br>学修計画書を書く                    | ・説得力のある志望理由をまとめる。<br>・履歴書や志望理由書、エントリーシートなど、自分をアピールする多様な書式に慣れる。                            | ○     | ○     | ○ |               |
| 2<br>学期 | 8<br>9                                   | 4 自己PRと面接<br>⑥面接にチャレンジ   | ・適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。<br>・質問に対して、具体的で説得力のある答え方をする。                                      | ○     | ○     | ○ | 期末<br>考查      |
|         | 9  | 5 メディアを駆使する<br>①通信文を書き分ける<br>・手紙の書き方                             | ・さまざまな通信文の形式を理解する。<br>・相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。  | ○     | ○     | ○ |               |
|         | 10<br>11                                 | 5 メディアを駆使する<br>②電話を使いこなす<br>③電子メールを活用しよう                         | ・初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。<br>・相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。<br>・電子メールの特徴を知り、活用方法や留意点を理解する。 | ○     | ○     | ○ |               |
|         | 12                                       | 5 メディアを駆使する<br>①通信文を書き分ける<br>・はがきの書き方                            | ・年賀状を中心としたさまざまなはがきの書き方を理解する。  | ○     | ○     | ○ |               |
|         | 12                                       | 【第2部 表現を楽しむ】<br>*魅力的なポスターを作ろ                                     | ・コピー、写真、イラストなどを1枚の紙の上にデザインして、人の心をつかむようなポスターを作成する。   | ○     | ○     | ○ | 学年<br>末<br>考查 |
| 1<br>2  | 【第1部 表現力を培う】<br>3 小論文・レポート入門<br>①レポートを書く | ・レポートの基本的な書き方を学び、卒業作品について、形式を整えたレポートを書く。                         | ○   | ○     | ○     |   |               |

|      |
|------|
| 歴史総合 |
|------|

|       |                             |     |   |       |      |
|-------|-----------------------------|-----|---|-------|------|
| 教 科   | 地理歴史                        | 単位数 | 2 | 学科・学年 | 3年全科 |
| 使用教科書 | 『歴史総合 新訂版 むすびつく世界と日本』(実教出版) |     |   |       |      |
| 副教材等  | 『歴史総合 演習ノート』                |     |   |       |      |

## 「 歴史総合 」の到達目標は

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

## 1. 評価の観点の趣旨と方法

|          | 知識・技能（技術）   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|----------|---|--|--|
| 評価の観点の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul>   |
| 評価の方法    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回の定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業プリント</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回の定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・課題プリント</li> <li>・成果物</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリントの提出状況とその内容</li> <li>・グループ学習における発表内容と合意形成への意欲</li> <li>・レポートの提出状況とその内容</li> <li>・課題プリントの提出状況とその内容</li> <li>・自己評価表による振り返り</li> </ul> |

## 2. 評価の規準（及び年間の評定）

| 内容のまとめ(単元)     | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|----------------|---|---|---|
| 歴史の扉           | <ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。</li> <li>資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、アで取り上げる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。</li> <li>複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史の扉について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>    |
| 第1編<br>近代化と私たち | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。</li> <li>18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。</li> <li>産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解している。</li> <li>18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。</li> <li>列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。</li> <li>現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。</li> <li>18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>国民国家の形成の背景</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |

|  |           |   |  |
|--|-----------|---|--|
|  | 史を理解している。 | <p>や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li><li>• 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現している</li></ul> |  |
|--|-----------|---|--|

第2編  
国際秩序の変化や大衆化と私たち

- 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。
- 第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。
- 大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及とマスメディアの発達などを基に，大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。
- 世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策などを基に，国際協調体制の動揺を理解している。
- 第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。
- 現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。

- 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現している。
- 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。
- 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し，表現している。
- 経済危機の背景と影響，国際秩序や政治体制の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，各国の世界恐慌への対応の特徴，国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。
- 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした

- 国際秩序の変化や大衆化と私たちについて，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

|                           |   |   |   |
|---------------------------|---|---|---|
|                           |   | <p>影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。</li> </ul>  |   |
| <p>第3編<br/>グローバル化と私たち</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。</li> <li>• 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。</li> <li>• 西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。</li> <li>• 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。</li> <li>• 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応な</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。</li> <li>• 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>• 冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• グローバル化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul> |

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
|   | <p>どを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。</li> </ul> | <p>世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>• 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>• 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</li> </ul> |  |
| <p>年間の評価は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、3観点をバランスよく判断して決定します。</p> |   |   |  |

### 3. 学習の計画と評価の観点

| 学期      | 月           | 学習内容   | 学習のねらい   | 評価の観点 |       |   | 審査範囲                |
|---------|-------------|--|--|-------|-------|---|---------------------|
|         |             |  |  | 知・技   | 思・判・表 | 主 |                     |
| 1<br>学期 | 4           | 歴史の扉   | <ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。</li> <li>近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。</li> <li>複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。</li> <li>中学校社会科における学習の成果を生かし、必修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深める。</li> </ul>  | ○     |       |   | 1<br>学期<br>中間<br>審査 |
|         | 4           | 近代化への問い  | <ul style="list-style-type: none"> <li>交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につける。</li> <li>交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用して、近代化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。</li> <li>交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から、情報を読みとったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだす。</li> </ul>                         | ○     |       |   | 1<br>学期<br>中間<br>審査 |
|         | 4<br> <br>5 | 第1編 近代化と私たち<br>1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動<br>2. 江戸時代の生産・流通と諸改革<br>3. 幕政の改革と東アジア世界<br>4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争<br>5. フランス革命とウィーン体制<br>6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立<br>7. オスマン帝国の衰退とロシア<br>8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国<br>9. 江戸幕府の滅亡 | <ul style="list-style-type: none"> <li>18世紀のヨーロッパ・東アジア・日本の社会や文化、アジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係に関する基本的な知識を理解する。</li> <li>18世紀のヨーロッパ・東アジア・日本の社会や文化、アジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、複数の根拠を基に判断・表現する。</li> <li>イギリスの産業革命と欧米でおきた市民革命、欧米のアジア進出がもたらした社会の変化に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し理解する。</li> <li>イギリスの産業革命と欧米でおきた市民革命、欧米のアジア進出がもたらした社会の変化に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、複数の根拠を基に判断・表現する。</li> </ul> | ○     |       |   | 1<br>学期<br>中間<br>審査 |

|         |               |   |  |   |   |   |   |                     |
|---------|---------------|---|--|---|---|---|---|---------------------|
| 1<br>学期 | 6<br> <br>7   | <p>10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一</p> <p>11. 明治政府の諸改革</p> <p>12. 日本のアジア外交と国境問題</p> <p>13. 自由民権運動と大日本帝国憲法</p> <p>14. 帝国主義の時代へ</p> <p>15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争</p> <p>16. 日清戦争後の東アジア</p> <p>17. 日露戦争と東アジアの変動</p> <p>18. 日本の産業革命</p> | <p>・欧米諸国と日本の国民国家の形成、日本のアジア外交や自由民権運動に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し理解する。</p> <p>・欧米諸国と日本の国民国家の形成、日本のアジア外交や自由民権運動に関する問い対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、判断・表現する。</p> <p>・帝国主義における欧米のアフリカ分割と太平洋分割、日本の産業革命と東アジア侵出がもたらした国際関係の変化に関する基本的な知識を活用し理解する。</p> <p>・帝国主義における欧米のアフリカ分割と太平洋分割、日本の産業革命と東アジア侵出がもたらした国際関係の変化に関する問い対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、判断・表現する。</p>   | ○ | ○ | ○ | ○ | 1<br>学期<br>期末<br>考査 |
|         | 8<br> <br>10  | <p>第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>19. 第一次世界大戦</p> <p>20. ロシア革命とソ連の成立</p> <p>21. 米騒動と大正デモクラシー</p> <p>22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制</p> <p>23. アジアの民族運動</p> <p>24. 第一次世界大戦後の欧米諸国</p> <p>25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現</p>                         | <p>・第一次世界大戦と国民生活の変化やロシア革命とその影響、戦後のヴェルサイユ体制とワシントン体制・アジアにおける民族運動・日本国内の社会運動に関する基本的な知識を理解する。</p> <p>・第一次世界大戦と国民生活の変化やロシア革命とその影響、戦後のヴェルサイユ体制とワシントン体制・アジアにおける民族運動・日本国内の社会運動に関する問い対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、判断・表現する。</p>  | ○ | ○ | ○ | ○ |                     |
| 2<br>学期 | 10<br> <br>11 | <p>26. 世界恐慌と各国の対応</p> <p>27. ファシズムの時代</p> <p>28. 満洲事変と軍部の対立</p> <p>29. 日中戦争と戦時体制</p> <p>30. 第二次世界大戦の勃発</p> <p>31. 第二次世界大戦の終結</p> <p>32. 国際連合の成立と冷戦</p> <p>33. 日本占領と日本国憲法</p> <p>34. 朝鮮戦争と日本</p>                           | <p>・アメリカで起きた世界恐慌がもたらした影響・各国の解決策・イタリア、ドイツのファシズム・日本の中国侵略や戦時体制に関する基本的な知識を理解する。</p> <p>・アメリカで起きた世界恐慌がもたらした影響・各国の解決策・イタリア、ドイツのファシズム・日本の中国侵略や戦時体制に関する問い対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、判断・表現できる。</p> <p>・第二次世界大戦における国際関係の変化、反ファシズムの抵抗運動や戦後新たに設立された国際連合の機能と限界、冷戦のはじまりと連合国による日本の占領に関する基本的な知識を理解する。</p> <p>・第二次世界大戦における国際関係の変化、反ファシズムの抵抗運動や戦後新たに設立された国際連合の機能と限界、冷戦のはじまりと連合国による日本の占領に関する問い対して、歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し、判断・表現する。</p> | ○ | ○ | ○ | ○ | 2<br>学期<br>期末<br>考査 |

|         |    |   |   |   |   |   |
|---------|----|---|---|---|---|---|
| 3<br>学期 | 12 | 第3編 グローバル化と私<br>たち  |   |   |   |   |
|         | 2  | 35. 植民地の独立<br>36. 米ソ両陣営の動揺<br>37. 日本の国際社会復帰<br>と高度経済成長<br><br>38. 石油危機と世界経済<br>39. 緊張緩和から冷戦の<br>終息へ<br>40. 日本の経済大国化<br><br>41. 地域紛争と対立<br>42. 国際秩序の変容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 第二次世界大戦後の植民地独立，米ソ両陣営の動揺や日本の55年体制の確立，アジアとの外交に関する基本的な知識を理解する。</li> <li>• 第二次世界大戦後の植民地独立，米ソ両陣営の動揺や日本の55年体制の確立，アジアとの外交に関する問いに対して，歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し，複数の根拠を基に判断・表現する。</li> <li>• 石油危機や中東情勢，ソ連解体が世界に与えた影響や日本の経済大国化に関する基本的な知識を理解する。</li> <li>• 石油危機や中東情勢，ソ連解体が世界に与えた影響や日本の経済大国化に関する問いに対して，歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し，判断・表現する。</li> <li>• 冷戦後の世界情勢，9.11以後の戦争の変化や国際秩序の変化に関する基本的な知識を理解する。</li> <li>• 冷戦後の世界情勢，9.11以後の戦争の変化や国際秩序の変化に関する問いに対して，歴史的なものの見方・考え方に基づいて思考し，判断・表現する。</li> </ul> | ○ | ○ | ○ |

学年末考査

|     |
|-----|
| 数学Ⅱ |
|-----|

|       |                                     |     |   |       |      |
|-------|-------------------------------------|-----|---|-------|------|
| 教 科   | 数学                                  | 単位数 | 2 | 学科・学年 | 全科3年 |
| 使用教科書 | 新編 数学Ⅱ（数研出版）                        |     |   |       |      |
| 副教材等  | 3TRIAL 数学Ⅱ（数研出版） スタディサプリ（株式会社リクルート） |     |   |       |      |

## 「 数学Ⅱ 」の到達目標は

- (1) 指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
- (2) 対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
- (3) 微分係数や導関数について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
- (4) 導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。
- (5) 積分の考えについて理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
- (6) 対応関係や規則性について興味をもち、活用できるようにする。
- (7) 濃度・速さ・損益の計算について興味をもち、計算することを通して活用できるようにする。

## 1. 評価の観点の趣旨と方法

|          | 知識・技能（技術）   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|----------|---|--|--|
| 評価の観点の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。</li> <li>・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。</li> </ul> |
| 評価の方法    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年5回の定期考査</li> <li>・ 長期休業あけの宿題テスト</li> <li>・ 単元テスト</li> <li>・ 小テスト</li> <li>・ 課題の出来栄</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年5回の定期考査</li> <li>・ 長期休業あけの宿題テスト</li> <li>・ 単元テスト</li> <li>・ 課題の出来栄</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業ノートのまとめかた</li> <li>・ 授業の取り組み状況</li> <li>・ 課題の取り組み状況</li> </ul>  |

## 2. 評価の規準（及び年間の評定）

| 内容のまとめり（単元）                        | 知識・技能（技術）   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|------------------------------------|---|---|---|
| 第5章 指数関数と<br>対数関数<br><br>第1節 指数の拡張 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。</li> <li>○累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。</li> <li>○指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。また、累乗根を含む計算では、分数指数を利用して計算することができる。</li> <li>○指数が無理数の場合の累乗根の意味を理解することができる。</li> <li>○指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。</li> <li>○底と1の大小に注意して、指数関数を含む不等式を解くことができる。</li> <li>○<math>x</math>軸方向、<math>y</math>軸方向に平行移動した指数関数のグラフをかくことができる。</li> <li>○<math>a^x &gt; 0</math>に注意して、おき換えによって指数方程式・不等式を解くことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。</li> <li>○累乗根をグラフによって考察することができる。</li> <li>○指数関数 <math>y = a^x</math> のグラフが定点(0, 1)を通ることを理解している。</li> <li>○指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。</li> <li>○負の数の<math>n</math>乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。</li> <li>○指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。</li> <li>○2の3乗根を小数で表すことに興味を示し、実際に取り組もうとする。</li> </ul> |
| 第5章 指数関数と<br>対数関数<br><br>第2節 対数関数  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。</li> <li>○底と1の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。</li> <li>○対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○対数 <math>\log_a M</math> が <math>M = a^p</math> を満たす指数 <math>p</math> を表していることを理解している。</li> <li>○指数法則から、対数の性質を考察することができる。</li> <li>○対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 <math>y = x</math> に関して対称であるという見方ができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。</li> <li>○やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。</li> <li>○桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。</li> <li>○現実世界の問題を、常用対数を用いて考察しようとする。</li> </ul>                               |

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○正の数を <math>a \times 10^n</math> の形に表現して、対数の値を求めることができる。</li> <li>○常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。</li> <li>○常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。</li> <li>○<math>x</math>軸方向に平行移動した対数関数のグラフをかくことができる。</li> <li>○おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○対数関数 <math>y = \log_a x</math> のグラフが定点(1, 0)を通ることを理解している。</li> <li>○対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。</li> <li>○<math>n</math>桁の数、小数首位第 <math>n</math>位の数を、不等式で表現することができる。</li> </ul>                                   |   |
| <p>スタディサプリ</p> <p>判断推理<br/>数的推理</p>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章題から必要な情報を抽出し、立式することができる。</li> <li>○水溶液の濃度、人や物の速さ、売買における損益の求め方を理解している。</li> <li>○水溶液の濃度や損益を、割合を用いて求めることができる。</li> <li>○指定された速さや損益を、方程式を用いて求めることができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○対応関係や試合の状況を、表などを用いて整理することができる。</li> <li>○図を用いて条件を整理し、関係性を判断しようとしている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○数と50音、数とアルファベットの対応関係を見つけようとする。</li> <li>○条件から順序だてて論理的に問題を解こうとする。</li> <li>○濃度・速さ・損益に興味をもち、問題に取り組もうとする。</li> <li>○就職試験に向けて、類似の問題に積極的に取り組むことができる。</li> </ul>  |
| <p>第6章 微分法と積分法</p> <p>第1節 微分係数と導関数</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○極限値を計算して微分係数を求めるとき、分母の <math>h</math> は 0 でないことを理解している。</li> <li>○平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。</li> <li>○微分係数の図形的意味を理解している。</li> <li>○定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。</li> <li>○導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。</li> <li>○導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○平均変化率における <math>x</math> の変化量 <math>h</math> は負でもよいことを理解している。</li> <li>○導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。</li> <li>○定点 <math>C</math> から曲線に接線を引くとき、接点 <math>A</math> における接線が点 <math>C</math> を通ると読み替えることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。</li> <li>○関数 <math>x^n</math> の導関数について、二項定理を用いた証明に興味をもち、考察しようとする。</li> <li>○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。</li> <li>○平均の速さと瞬間の速さに興味をもち、平均変化率や微分係数との関連を考察しようとする。</li> </ul> |

|                                       |  |   |   |
|---------------------------------------|--|---|---|
|                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○変数が <math>x, y</math> 以外の関数について，導関数が求められる。</li> <li>○接点の <math>x</math> 座標が与えられたとき，接線の方程式を求めることができる。</li> <li>○接線の方程式の公式を利用して，接線の方程式を求めることができる。</li> <li>○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。</li> <li>○微分係数の値などから関数を決定することができる。</li> </ul>  |   |   |
| <p>第6章 微分法と積分法</p> <p>第2節 関数の値の変化</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○導関数を利用して，関数の増減を調べることができる。</li> <li>○関数の増減や極値を調べるのに，増減表を書いて考察している。</li> <li>○導関数を利用して，関数の極値を求めたり，グラフをかいたりすることができる。</li> <li>○関数の極値が与えられたとき，関数を決定することができる。</li> <li>○導関数を利用して，関数の最大値・最小値を求めることができる。</li> <li>○最大・最小の応用問題では，変数のとり方，定義域に注意して解くことができる。</li> <li>○導関数を利用して，方程式の実数解の個数問題，不等式の証明問題を解くことができる。</li> <li>○不等式 <math>f(x) \geq 0</math> を，関数 <math>y = f(x)</math> の最小値が <math>0</math> 以上と読み替えることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。</li> <li>○<math>f'(a) = 0</math> は，<math>f(a)</math> が極値であるための必要条件ではあるが，十分条件ではないことを理解している。</li> <li>○最大値・最小値と極大値・極小値の違いを，意識して考察できる。</li> <li>○方程式の実数解の個数を，関数のグラフと <math>x</math> 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。</li> <li>○不等式を，関数のグラフと <math>x</math> 軸との上下関係に読み替えて，考察できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○関数の増減や極値を調べ，3次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。</li> <li>○関数の増減や極値を調べ，4次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。</li> <li>○身近にある最大値・最小値の問題を，微分法を利用して解決しようとする。</li> <li>○方程式や不等式を関数的視点で捉え，微分法を利用して解決しようとする。</li> <li>○3次関数の対称性について，対称の中心となる点（変曲点）について考察しようとする。</li> </ul> |

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| <p>第6章 微分法と積分法<br/>第3節 積分法</p>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。</li> <li>○不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。</li> <li>○与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。</li> <li>○定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。</li> <li>○上端が変数 <math>x</math> である定積分で表された関数を微分して処理することができる。</li> <li>○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。</li> <li>○定積分の性質の等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形として利用できる。</li> <li>○上端が <math>x</math> である定積分を、<math>x</math> の関数とみることができる。</li> <li>○面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。</li> <li>○図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。</li> <li>○3次関数のグラフと <math>x</math> 軸とで囲まれた2つの部分の面積の和を求めることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。</li> <li>○定積分の性質を利用して、計算がなるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲がある。</li> <li>○面積 <math>S(x)</math> が関数 <math>f(x)</math> の原始関数の1つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。</li> <li>○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。</li> <li>○絶対値記号を含む関数の積分の意味に興味をもち、具体的な問題に取り組もうとする。</li> </ul> |
| <p>1年間の評価は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能を重視して総合的に判断し決定します。</p> |   |  |  |

### 3. 学習の計画と評価の観点

| 学期      | 月  | 学習内容                                    | 学習のねらい   | 評価の観点 |       |   | 検査範囲      |
|---------|----|---|--|-------|-------|---|-----------|
|         |    |   |  | 知・技   | 思・判・表 | 主 |           |
| 1<br>学期 | 4  | 5章 指数関数と対数関数<br>1節 指数の拡張                | ○指数を有理数まで拡張し、指数法則が成り立つことを理解し、それに基づく計算ができるようにする。<br>○指数関数の基本性質を理解し、グラフをかけるようにする。  | ○     | ○     | ○ | 中間<br>検査  |
|         | 5  |   |  |       |       |   |           |
|         | 6  | 2節 対数関数                                 | ○対数の定義と性質を理解し、それに基づく計算ができるようにする。<br>○対数関数の基本性質を理解し、グラフをかけるようにする。   | ○     | ○     | ○ | 期末<br>検査  |
| 2<br>学期 | 7  | スタディサプリ                                 | ○暗号、対応関係、試合、順序関係について学習し、規則性をみつけたり、論理的に判断したりして、正答を導きだすことができるようにする。<br>○濃度、速さ、損益について学習し、条件をもとに立式、計算し、正答を導きだすことができるようにする。 | ○     | ○     | ○ | 中間<br>検査  |
|         | 8  | 判断推理                                    |  |       |       |   |           |
|         | 9  | 数的推理                                    |  |       |       |   |           |
|         | 10 | 6章 微分法と積分法<br>1節 微分係数と導関数<br>2節 関数の値の変化 |  |       |       |   |           |
| 11      |    |   |  |       |       |   |           |
| 3<br>学期 | 12 | 3節 積分法                                  | ○微分法の逆演算として不定積分を導入し、不定積分の公式を導く。定積分と不定積分の関係を明らかにし、定積分の計算ができるようにする。<br>○定積分を利用して、簡単な平面図形の面積の求め方を理解する。                    | ○     | ○     | ○ | 学年<br>末検査 |
|         | 1  |   |  |       |       |   |           |
|         | 2  |   |  |       |       |   |           |

|     |
|-----|
| 数学B |
|-----|

|       |                  |     |   |       |          |
|-------|------------------|-----|---|-------|----------|
| 教 科   | 数学               | 単位数 | 2 | 学科・学年 | 全科3年（選択） |
| 使用教科書 | 新編 数学B（数研出版）     |     |   |       |          |
| 副教材等  | 3TRIAL 数学B（数研出版） |     |   |       |          |

## 「 数学B 」の到達目標は

- (1) 数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

## 1. 評価の観点の趣旨と方法

|          | 知識・技能（技術）   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|----------|---|---|---|
| 評価の観点の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul> | 離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。</li> </ul> |
| 評価の方法    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノートのまとめかた</li> <li>・授業の取り組み状況</li> <li>・課題の取り組み状況</li> </ul>  |

## 2. 評価の規準（及び年間の評定）

| 内容のまとめり(単元)                   | 知識・技能（技術）  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|-------------------------------|--|--|---|
| <p>1章 数列<br/>1節 等差数列と等比数列</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数列の定義，表記について理解している。</li> <li>・数列に関する用語，記号を適切に用いることができる。</li> <li>・等差数列の公差，一般項などを理解している。</li> <li>・初項と公差を文字で表して，条件から数列の一般項を決定できる。</li> <li>・等差数列の和の公式を適切に利用して，数列の和が求められる。</li> <li>・順列の総数，階乗を記号で表し，それを活用できる。</li> <li>・自然数の和，奇数の和，偶数の和などが求められる。</li> <li>・等比数列の公比，一般項などを理解している。</li> <li>・初項と公比を文字で表して，条件から数列の一般項を決定できる。</li> <li>・等比数列の和の公式を，適切に利用して数列の和が求められる。</li> <li>・等比数列の和の公式を利用して，和の値から数列の一般項を求めることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数の並び方からその規則性を推定して，数列の一般項を考察できる。</li> <li>・等差数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。</li> <li>・等差数列の和を工夫して求める方法について考察できる。</li> <li>・等比数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。</li> <li>・既知の順列や積の法則をもとにして，円順列，重複順列を考察することができる。</li> <li>・等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数の並び方に興味をもち，その規則性を発見しようとする意欲がある。</li> <li>・等差中項の性質に興味をもち，問題解決に取り組もうとする。</li> <li>・道順の数え方に興味を示し，樹形図，和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。</li> <li>・等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。</li> <li>・等比中項の性質に興味をもち，問題解決に利用しようとする。</li> <li>・等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。</li> <li>・複利計算に興味・関心をもち，具体的な問題に取り組もうとする。</li> <li>・フィボナッチ数列に興味・関心をもち，その性質や一般項を考察しようとする。</li> </ul> |
| <p>2節 いろいろな数列</p>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・記号<math>\Sigma</math>の意味と性質を理解し，数列の和が求められる。</li> <li>・第<math>k</math>項を<math>k</math>の式で表して，初項から第<math>n</math>項までの和が求められる。</li> <li>・階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。</li> <li>・数列の和<math>S_n</math>と第<math>n</math>項<math>a_n</math>の関係を理解し，数列の一般項が求められる。</li> <li>・階差数列の利用，和<math>S_n</math></li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数列の和を記号<math>\Sigma</math>で表して，和の計算を簡単に行うことができる。</li> <li>・和<math>\Sigma r^k</math>について，既に学んだ等比数列の和と捉えて求めることができる。</li> <li>・数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。</li> <li>・初項から第<math>n</math>項までの和に着目して，一般項を考察できる。</li> <li>・群数列を理解し，ある</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然数の2乗の和を工夫して求める方法に興味をもち，自然数の2乗の和の公式を導こうとする意欲がある。</li> <li>・数列の規則性を，隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。</li> <li>・<math>f(k+1) - f(k)</math>を用いる和の求め方に興味をもち，具体的な問題に活用しようとする。</li> <li>・群数列に興味をもち，考察しようとする。</li> </ul>   |

|                              |  |   |   |
|------------------------------|--|---|---|
|                              | <p>の利用では、初項の扱いに注意して一般項が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。</li> </ul>  | <p>特定の群に属する数の和が求められる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自然数の3乗の和の公式を求めようとする意欲がある。</li> <li>三角数、四角数、五角数に興味をもち、五角数がつくる数列の一般項を求める問題に取り組もうとする。</li> </ul>  |
| <p>3節 漸化式と数学的帰納法</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。</li> <li>漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。</li> <li>おき換えを利用して、漸化式から一般項を求めることができる。</li> <li>初項と漸化式から数列の一般項が求められる。</li> <li>数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。</li> <li><math>n \geq k</math> の場合に成り立つ不等式を、数学的帰納法を用いて証明できる。</li> <li>ある整数の倍数であることを、文字を用いて表現できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。</li> <li>複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。</li> <li>自然数 <math>n</math> に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解している。</li> <li>数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらを比較するなど、多面的に考察することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。</li> <li><math>a_{n+1} = pa_n + q</math> を満たす数列の階差数列について、具体的に考察しようとする。</li> <li>数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。</li> <li>図形の問題について、数列で考察することに興味をもち、具体的な問題に取り組もうとする。</li> </ul> |
| <p>2章 統計的な推測<br/>1節 確率分布</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。</li> <li>確率変数の確率分布を求めることができる。</li> <li>確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。</li> <li>確率変数の期待値 <math>E(X)</math> や分散 <math>V(X)</math> などの計算式を理解して活用できる。</li> <li>確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。</li> <li>複雑な確率分布の期待値を、確率変数の和の期待値の公式などを</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。</li> <li>確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。</li> <li>確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。</li> <li>具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。</li> <li>正規分布の特徴を理解し、様々な視点からと</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。</li> <li>確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。</li> <li>2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうか注意しながら導こうとする。</li> <li>二項分布に興味・関心</li> </ul>      |

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
|  | <p>利用して求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 確率変数の独立について理解している。</li> <li>• 独立な確率変数の積の期待値を、公式を利用して求めることができる。</li> <li>• 独立な確率変数の和の分散を、公式を利用して求めることができる。</li> <li>• 反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。</li> <li>• 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。</li> <li>• 確率密度関数や分布曲線の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる。</li> <li>• 正規分布に従う確率変数 <math>X</math> を標準正規分布に従う確率変数 <math>Z</math> に変換できる。</li> <li>• 標準正規分布に従う確率変数 <math>Z</math> についての確率を求めることができる。</li> <li>• 標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。</li> <li>• 日常の身近な問題を統計的に処理するのに、正規分布を利用できる。</li> <li>• 二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を、正規分布に従う確率変数で近似して求めることができる。</li> <li>• 連続的な確率変数について理解し、その期待値と分散が求められる。</li> </ul> | <p>らえることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。</li> </ul> | <p>をもち、さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差の公式について、確率分布の定義から導こうとする。</li> <li>• 二項分布のグラフに関心をもち、調べてみようとする。</li> <li>• 現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。</li> <li>• 二項分布について、試行の回数 <math>n</math> を大きくしたときの分布曲線の変化をコンピュータで見るなどして、正規分布に近づいていく様子を自ら確かめようとする。</li> <li>• 偏差値に関心をもち、具体例等からその意味を考察しようとする。</li> </ul> |
|--|---|--|---|

|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <p>2節 統計的な推測</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 復元抽出と非復元抽出について理解している。</li> <li>• 母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差を求めることができる。</li> <li>• 標本平均が確率変数であることを理解している。</li> <li>• 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。</li> <li>• 標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。</li> <li>• 推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。</li> <li>• 信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。</li> <li>• 仮説検定に関わる用語を適切に活用することができる。</li> <li>• 仮説検定の考え方をを用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。</li> <li>• 母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。</li> <li>• 標本の大きさ<math>n</math>を大きくしたとき、標本平均がどのような分布になるか直感的に理解した上で、標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。</li> <li>• 大数の法則について理解し、標本の大きさ<math>n</math>が大きくなるときの標本平均の分布の変化の様子について考察できる。</li> <li>• 推定や信頼区間の考え方がわかる。</li> <li>• 仮説検定の考え方がわかる。</li> <li>• 片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か、またその方法を採用しているのはなぜかに興味をもち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。</li> <li>• 母集団や標本の特徴を理解しようとする。</li> <li>• 大数の法則に興味をもち、標本の大きさ<math>n</math>が大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。</li> <li>• 母平均や母比率の推定に関心を示し、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。</li> <li>• 仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。</li> <li>• 標本の抽出方法にいくつか種類があることに興味・関心をもち、どのような方法があるかを調べようとする。</li> </ul> |
| <p>1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、「知識：技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を総合的に判断して決定します。</p> |   |  |   |

### 3. 学習の計画と評価の観点

| 学期      | 月                    | 学習内容   | 学習のねらい  | 評価の観点 |       |                       | 調査範囲                  |
|---------|----------------------|--|---|-------|-------|-----------------------|-----------------------|
|         |                      |  |   | 知・技   | 思・判・表 | 主                     |                       |
| 1<br>学期 | 4                    | 1章 数列<br>1節 等差数列と等比数列                                      | 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。                      | ○     | ○     | ○                     | 中間<br>考查              |
|         | 5                    |  |   |       |       |                       |                       |
|         | 6                    | 1節 等差数列と等比数列   | 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。                      | ○     | ○     | ○                     | 期末<br>考查              |
|         | 7                    | 2節 いろいろな数列   | 和の記号 $\Sigma$ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 | ○     | ○     | ○                     | 中間<br>考查              |
| 2<br>学期 | 8                    | 3節 漸化式と数学的帰納法  | 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。                 | ○     | ○     | ○                     | 期末<br>考查              |
|         | 9                    |  |   |       |       |                       |                       |
|         | 10                   | 3節 漸化式と数学的帰納法  | 数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。   | ○     | ○     | ○                     |                       |
| 11      | 2章 統計的な推測<br>1節 確率分布 | 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。 | ○   | ○     | ○     | 学<br>年<br>末<br>考<br>査 |                       |
|         | 12                   | 2節 統計的な推測  | 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。                      | ○     | ○     |                       | ○                     |
| 3<br>学期 | 1                    | 2節 統計的な推測  | 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。                      | ○     | ○     | ○                     | 学<br>年<br>末<br>考<br>査 |
|         | 2                    |  |   |       |       |                       |                       |

|    |
|----|
| 物理 |
|----|

|       |                          |     |   |       |         |
|-------|--------------------------|-----|---|-------|---------|
| 教 科   | 理科                       | 単位数 | 3 | 学科・学年 | 3年 選択科目 |
| 使用教科書 | 物理（数研出版）                 |     |   |       |         |
| 副教材等  | サンダイヤル ステップアップノート 物理 改訂版 |     |   |       |         |

「物理」の到達目標は

- (1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。
- (2) 問題演習や観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。

### 1. 評価の観点の趣旨と方法

|          | 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|----------|---|--|---|
| 評価の観点の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理の理解ができる。</li> <li>• 科学的に探究するために、必要な観察、実験などに関する技能を身につけることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮設の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探求の方法を習得できる。</li> <li>• 報告書を作成したり、発表したりして、科学的に探究することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとすることや科学的に探求しようとするができる。</li> </ul> |
| 評価の方法    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年5回の定期考査</li> <li>• 実験レポート</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年5回の定期考査</li> <li>• 発表内容</li> <li>• 授業での応答</li> <li>• 実験レポート</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業ノートのまとめ方</li> <li>• 授業態度、質疑応答</li> <li>• 実験に取り組む姿、レポート</li> </ul>            |

## 2. 評価の規準（及び年間の評定）

| 内容のまとめ(単元)             | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|------------------------|--|---|--|
| 第1編 力と運動<br>第1章 平面内の運動 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 変位と移動距離の違いを理解できる。</li> <li>• 平面上の合成速度，相対速度の意味と求め方を理解できる。</li> <li>• 加速度は速度の時間変化を表すものであり，ベクトル量であること，またその求め方を理解できる。</li> <li>• 水平投射は鉛直方向には自由落下，水平方向には等速直線運動をしていることを理解し，適切に式を運用できる。</li> <li>• 斜方投射は鉛直方向には鉛直投げ上げ，水平方向には等速直線運動をしていることを理解し，適切に式を運用できる。</li> <li>• 水平投射について，初速度を変えても同時に落下することを確認し，理解できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 動く観測者から見た場合の，観測者と同じ平面上を動く物体の運動のようすを説明できる。</li> <li>• 斜方投射の運動のようすを，鉛直方向と水平方向に分けて説明できる。</li> <li>• 斜方投射について，例題 3 で求められる水平到達距離の式の意味を理解し，説明することができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 平面運動をしている物体の速度や加速度，相対速度などの表し方について学ぶ意味を理解しようとしている。</li> <li>• 落体の運動，特に水平投射，斜方投射について，物体の運動はどのようになっているか理解しようとしている。</li> <li>• 水平投射の運動のようすを確認する実験に主体的に取り組んでいる。</li> </ul>   |
| 第2章 剛体                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 力のモーメントについて理解できる。</li> <li>• 剛体のつりあいでは，並進運動をしない条件と回転運動をしない条件が必要なことを理解できる。</li> <li>• 棒におもりをつり下げるとき，おもりの位置を変えていったときの，棒の両端にはたらく力の大きさを調べ，データにまとめることができる。</li> <li>• 剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる。</li> <li>• 偶力のモーメントを求めることができる。</li> <li>• 与えられた剛体（または物体系）の重心を求めることができる。</li> <li>• 剛体の転倒する条件を</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 力のモーメントの式を理解し，うでの長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる。</li> <li>• 剛体にはたらく力がつりあうための 2 つの条件を理解し，はたらく力の間の関係について説明できる。</li> <li>• 棒におもりをつり下げるとき，おもりの位置を変えていったときの，棒の両端にはたらく力の大きさを調べ，2力の和と，力のモーメントの和について，それぞれどのような関係があるかを考えることができる。</li> <li>• 剛体の転倒する条件を理解し，重心の位置と転倒のしやすさの関</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 剛体のつりあいには，並進運動をしない条件だけではなく，回転運動をしない条件が必要なことを理解しようとしている。</li> <li>• 棒のつりあいを調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 剛体が傾く条件や転倒する条件を理解しようとしている。</li> <li>• 厚紙でできた三角形の重心とつりあいの位置の関係を調べる実験や直方体の転倒のしやすさを調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> |

|            |  |  |  |
|------------|--|--|--|
|            | <p>理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>厚紙でできた三角形の重心とつりあいの位置が同じになることを確かめることができる。</li> <li>直方体をどのように置いたときに転倒しやすいかを調べることができる。</li> </ul>  | <p>係を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>剛体の傾く条件を説明することができる。</li> <li>力のモーメントの基準点を適切な位置にとり、剛体の転倒について考えることができる。</li> </ul>  |  |
| 第3章 運動量の保存 | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量と力積について、求め方を理解できる。</li> <li>運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解できる。</li> <li>直線運動の場合だけでなく、平面運動での運動量と力積との間に成りたつ関係式をベクトル図から考えることができる。</li> <li>台車をハンマーでたたいて加速させるときの台車が受ける力と速度の時間変化を測定した結果からグラフを作成し、力積と運動量の間関係を調べることができる。</li> <li>直線運動、平面運動における運動量保存則を式で表現することができる。</li> <li>実験6で、台車の衝突する位置を調べることができる。</li> <li>記録タイマーを用いて、台車が直線上で衝突し合体するとき、衝突の前後で運動量保存則が成りたつことを検証できる。</li> <li>反発係数の式を用いて、衝突する物体の運動を調べることができる。</li> <li>小球と床との間の反発係数は、衝突の前後における相対速度の比の絶対値で定義されること、またそれは落</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>運動量の変化と力積の関係の式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明することができる。</li> <li>運動量保存則が成りたつ条件を説明することができる。</li> <li>反発係数と運動量、力学的エネルギーの間関係を説明することができる。</li> <li>運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求め、物体の運動を説明することができる。</li> <li>反発係数と運動量、力学的エネルギーの間関係を説明することができる。</li> <li>運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求め、物体の運動を説明することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>物体の運動について、運動量と力積を用いて理解しようとしている。</li> <li>台車が受ける力積と運動量の変化の間に成りたつ関係を調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>身のまわりにある物体どうしの衝突の際に、衝突の前後で変わらない量があり、それが運動量であること、また運動量が衝突の前後で保存する条件を理解しようとしている。</li> <li>運動量保存則を調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。</li> <li>反発係数を調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> |

|                         |   |  |  |
|-------------------------|---|--|--|
|                         | <p>下距離と床に衝突した後の上昇距離との比の平方根に等しいということを理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 斜め衝突について理解できる。</li> <li>• 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる。</li> <li>• 弾性衝突以外の衝突では、力学的エネルギーが保存されないことを理解できる。</li> <li>• ボールの反発係数を実験により調べることができる。</li> </ul>  |  |  |
| <p>第4章<br/>円運動と万有引力</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 等速円運動をしている物体の回転の速度、角速度、周期、回転数の諸量の定義が理解できる。</li> <li>• 等速円運動するのに必要な向心力を理解し、運動方程式を立てることができる。</li> <li>• 等速円運動をする物体の質量、回転の半径、周期、向心力の間の関係について、実験で調べることができる。</li> <li>• 慣性力を含めたつりあいの式を立てることができる。</li> <li>• 遠心力が慣性力の一種であることを理解し、遠心力を含めたつりあいの式を立てることができる。</li> <li>• 実験 10 の結果から、水と鉄、水とコルクそれぞれについて、密度の大小とおもりの傾く向きを説明することができる。</li> <li>• 単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解できる。</li> <li>• ばね振り子の周期を表す式を導く過程を理解し、周期や振幅、最大の速さなどを求め</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 等速円運動の中心方向の運動方程式から、物体の運動を考えることができる。</li> <li>• 一定の半径で等速円運動する物体の速さと物体にはたらく向心力の大きさの間の関係を説明できる。</li> <li>• 慣性力とその他の力の違いについて理解し、説明できる。</li> <li>• 遠心力を用いて、円運動する物体にはたらく力のようすを考えることができる。</li> <li>• 単振り子の周期の式を用いて、重力加速度の大きさが異なる場所での運動のようすを考えることができる。</li> <li>• ばね振り子や単振り子の周期の式を用いて、周期と質量や周期と糸の長さの間の関係について説明できる。</li> <li>• おもりの質量を変えていったときのばね振り子の周期を測定し、おもりの質量と周期の間の関係を考えることができる。</li> <li>• 糸の長さや小球の質量、振幅を変えていったときのばね振り子</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 等速円運動する物体には、どのような力がはたらくているかを理解しようとしている。</li> <li>• 等速円運動する物体を調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 電車などの乗りものが急発進をしたり、急ブレーキをかけたりするとき、車内の人に現れる力の原因について、理解しようとしている。</li> <li>• 慣性力がはたらく方向を調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 往復運動の一つである単振動について、運動（振動）の最中、速度や加速度がどのように変化しているか、また周期はどのようにすれば変化するのかということを理解しようとしている。</li> <li>• ばね振り子や単振り子の周期を調べる実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 惑星や人工衛星が万有引力によって運動を続けていることや、その運動のようすについて理解しようとし</li> </ul> |

|                                       |  |   |   |
|---------------------------------------|--|---|---|
|                                       | <p>ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 単振り子の周期を表す式を導く過程を理解し、周期を求めることができる。</li> <li>• おもりの質量を変えていったときのばね振り子の周期を測定し、おもりの質量と周期の間の関係を調べることができる。</li> <li>• 糸の長さや小球の質量、振幅を変えていったときのばね振り子の周期を測定し、周期がどのように変化するかを調べることができる。</li> <li>• 単振り子の周期を測定し、重力加速度の大きさなどの量を求めることができる。</li> <li>• ケプラーの法則を理解できる。</li> <li>• 万有引力の式を理解できる。</li> <li>• 万有引力の位置エネルギーの式を用いて、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる。</li> <li>• 回転運動する物体の回転の半径を変えていったとき、回転する物体の速さがどのように変化するか調べることができる。</li> <li>• 書籍やインターネットなどで調べたい情報を得ることができる。また、対数グラフの使い方を理解し、データを正しくまとめることができる。</li> </ul> | <p>の周期を測定し、周期がどのように変化するか考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 万有引力の式を用いて、異なる惑星の表面上での重力加速度の大きさを比較することができる。</li> <li>• 静止衛星とは何かを理解し、衛星の高度と周期の間の関係を説明できる。</li> <li>• だ円運動する惑星の運動について説明できる。</li> <li>• 無限遠を基準とした万有引力の位置エネルギーについて説明できる。</li> </ul> | <p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ケプラーの第二法則を検証する実験や、地球の周囲を回る物体の軌道半径、周期を調べる実習に主体的に取り組んでいる。</li> </ul>                         |
| <p>第2編 熱と気体<br/>第1章 気体のエネルギーと状態変化</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 気体の圧力を求める式を理解できる。</li> <li>• ボイル・シャルルの法則を用いて、状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求めることができる。</li> <li>• 理想気体の状態方程式を用いることができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ボイル・シャルルの法則を用いて、日常に即した課題について考察することができる。</li> <li>• 気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解できる。</li> <li>• 気体の圧力や体積、温度を変えるとき、これ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 気体の圧力や体積、温度を変えるとき、これらの量の間どのような関係が成り立っているかを理解しようとしている。</li> <li>• ボイルの法則を検証する実験に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> |

|                             |  |   |   |
|-----------------------------|--|---|---|
|                             | <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ボイルの法則を実験で検証できる。</li> <li>• 気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる。</li> <li>• 気体分子の平均運動エネルギーが絶対温度と関係あることを理解できる。</li> <li>• 単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解できる。</li> <li>• 気体の状態変化の、「定積変化」、「定圧変化」、「等温変化」、「断熱変化」を、それぞれ <math>p</math>-<math>V</math> 図や式で表すことができる。</li> <li>• 気体のモル比熱について理解し、マイヤーの関係やポアソンの法則を適切に用いることができる。</li> <li>• 熱機関のモデルとして、サイクルの状態変化を理解し、熱効率を求めることができる。</li> <li>• 断熱膨張によって水蒸気が凝縮するようすや、断熱圧縮によって高温になり綿くずが燃えるようすを確認できる。</li> <li>• ビー玉を用いたスターリングエンジンを製作し、その動作原理を理解できる。</li> </ul> | <p>らの量の間にとどのような関係が成りたっているかを理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 壁に分子が衝突することから分子の運動量の変化、壁が受ける力積から壁が受ける圧力を考察し、理想気体の気体分子の速度と圧力の関係について説明できる。</li> <li>• 平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる。</li> <li>• 気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる。</li> <li>• 定積モル比熱と定圧モル比熱の違いを正しく理解し、2つの間に成りたつ関係について説明できる。</li> <li>• 熱機関のしくみを説明できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 気体の分子がもっている質量、速度、運動量などのミクロな量と、気体の圧力などマクロな量がどのような関係にあるか興味関心をもち、理解しようとしている。</li> <li>• 気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのかを理解しようとしている。</li> <li>• 断熱変化の実験やスターリングエンジンの製作に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> |
| <p>第3編 波<br/>第1章 波の伝わり方</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 波が伝わるようすを、グラフで表現することができる。</li> <li>• 位相のずれや進行方向の違いなども考慮して、正弦波の式を正しく表すことができる。</li> <li>• 定在波が生じるしくみを理解できる。</li> <li>• 水面波の干渉で強めあう点と弱めあう点の条件を理解できる。</li> <li>• 波の反射・屈折の際に、</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 水面を伝わる波の発生条件について説明できる。</li> <li>• 横波と縦波の違いについて説明できる。</li> <li>• 正弦波の式に <math>x=0</math>, <math>t=2T</math> を代入した式について、それぞれが何を表す式かを説明することができる。</li> <li>• 2つの波源から出た波が、強めあう条件と弱めあう条件を説明す</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。</li> <li>• 正弦波を数式で表す方法について理解しようとしている。</li> <li>• 波の干渉や反射、屈折、回折などの波の伝わり方に興味をもち、理解しようとしている。</li> <li>• 水面波の干渉の実験</li> </ul>                     |

|            |   |  |   |
|------------|---|--|---|
|            | <p>どのような法則があるかを理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 水面波が干渉するようすを確認できる。</li> <li>• 水面波が壁で反射することを確認できている。また、水深が変わる境界面で屈折が起こることを確認できる。</li> <li>• 水面波がすき間を通過して回折するようすを確認できる。</li> </ul>                 | <p>ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 海岸に向かってくる波の波面が海岸線に対して平行になる理由を説明することができる。</li> </ul>   | <p>や、水面波の反射と屈折の実験、水面波の回折の実験に主体的に取り組んでいる。</p>  |
| 第2章 音の伝わり方 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 音の干渉について、音が強めあう条件と弱めあう条件を理解できる。</li> <li>• うなりについて、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。</li> <li>• ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。</li> <li>• ブザーを投げる実験でドップラー効果を確認できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。</li> <li>• 冬の良く晴れた夜に遠くの音がよく聞こえる理由を説明することができる。</li> <li>• 音源が特定の時間だけ音を出す場合のドップラー効果について、観測者が音を観測する時間を考えることができる。</li> <li>• 運動している音源から出た音の波長が、音源の前方と後方でどのように変化するかを説明することができる。</li> <li>• 観測者が動く場合（音源は静止）のドップラー効果がなぜ起きるか説明することができる。</li> <li>• ドップラー効果を利用した簡易スピード測定の原理について考えることができる。</li> <li>• 音源が等速円運動をする場合のドップラー効果について、その周囲で音がどのように変化するかを考えることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 音が関係する現象に興味をもち、音の性質と音の伝わり方について理解しようとしている。</li> <li>• 音の干渉の実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 身近な現象である音のドップラー効果に興味をもち、なぜそのような現象が起こるか理解しようとしている。</li> <li>• ドップラー効果の実験に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> |
| 第3章 光      | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 光は進んでいくとき、反射、屈折、分散、散乱を行うこと、またその際にどのような法則が成り立っているのかを理解できる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 光が2つの媒質の境界面で屈折するようすの図から、どちらの媒質のほうが光が伝わるのが速いか判断できる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 光が関係する現象に興味をもち、光についての基本事項と光の進み方について理解しようとしている。</li> <li>• 屈折率の測定の実験、</li> </ul>  |

|  |   |   |   |
|--|---|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 屈折の法則を利用して、ガラスの屈折率を測定できる。</li> <li>• ペットボトルの中に水で薄めた牛乳（せっけん水）を入れ、懐中電灯で照らす実験で光の散乱を確認できる。</li> <li>• レンズと鏡によって生じる像を作図することができる。また、写像公式を理解し、式を利用して像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。</li> <li>• 写像公式を利用して凸レンズの焦点距離を測定することができる。</li> <li>• ヤングの実験、回折格子、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解できる。</li> <li>• 複スリットを作成し、それにレーザー光を当てて干渉縞を確認できる。</li> <li>• 回折格子を用いて、ナトリウムランプが発する光の波長を求めることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 副虹がどのように見えるか、主虹の場合から類推して考えることができる。</li> <li>• プリズムで白色光が分散する理由を説明することができる。</li> <li>• 晴れた日の昼の空が青く、夕焼けが赤く見える理由を説明することができる。</li> <li>• 凸レンズによりスクリーン上に実像ができているとき、レンズの上半分を黒い紙でおおうと像がどうなるかを説明することができる。</li> <li>• 凸レンズの焦点距離の外側に物体（光源）を置くと、どのような像が生じるか説明することができる。</li> <li>• 凸面鏡が、平面鏡よりもカーブミラーに適している理由を説明することができる。</li> <li>• 鏡に全身が映るための条件を考えることができる。</li> <li>• お玉杓子の表面と裏面での反射について、それぞれどのように見えるかを説明することができる。</li> <li>• 回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の変化を考えることができる。</li> <li>• ヤングの実験で光が強めあうときの条件を説明することができる。</li> <li>• 媒質の屈折率と光路長の関係を説明することができる。</li> <li>• くさび形空気層の平面ガラスに力を加えたときの縞の変化について説明することができる。</li> </ul> | <p>光の散乱の実験に主体的に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• レンズや鏡に興味をもち、それによってどのような像ができるかについて理解しようとしている。</li> <li>• 凸レンズの焦点距離の測定の実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• シャボン玉や CD・DVD が色づいて見えることについて興味をもち、光の干渉や回折の現象を理解しようとしている。</li> <li>• ヤングの実験や回折格子による光の干渉実験に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> |
|--|---|---|---|

第4編 電気と磁気  
第1章 電場

- 静電気の帯電のしくみ、電荷のもつ電気量について正しく理解できる。
- 電気量保存の法則やクーロンの法則について理解し、関係式を正しく適用できる。
- 箔検電器を用いた電荷の移動について正しく理解できる。
- 箔検電器を用いて、電荷の移動を調べることができる。
- 電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく適用できる。
- 電場がベクトル量であることを理解し、電場の向きや強さを求めることができる。
- 電気力線がどのようなものかを理解できる。
- 電位について理解し、さまざまな関係式を正しく適用できる。
- 電位は電場と異なり、スカラー量であることを理解できる。
- 等電位線（面）がどのようなものかを理解できる。
- デジタルマルチメータを正しく使用して等電位線を描くことができる。
- 外部から電気力線を加えても、導体内部には電気力線が入りこめない（静電遮蔽）理由を理解できる。
- コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。
- コンデンサーに誘電体をはさんだとき、電気容量がどのように変わるか理解できる。
- コンデンサーの直列接続、並列接続の公式を理解できる。

- 電荷間の距離とはたらく静電気力との関係を説明できる。
- 静電誘導及び誘電分極の現象について、それぞれ説明できる。
- 点電荷のつくる電場の強さが何に関係するかを説明できる。
- 電気力線とは何かを説明することができる。
- 電荷間距離と電場の強さの関係のグラフの形状を、電場の性質から考察できる。
- 電場はベクトル量、電位はスカラー量であることを理解し、説明できる。
- 電気力線と等電位線の関係について説明できる。
- 電荷間距離と電位の関係のグラフの形状を、電位の性質から考察できる。
- 電場中に置いた導体内部の電場と電位がどのようになるかを説明できる。
- アース線の役割を説明できる。
- 平行板コンデンサーの充電のメカニズムを説明することができる。
- 平行板コンデンサーに誘電体をはさむことによって電気容量が増える理由について説明することができる。

- 身近な現象から、静電気の現象に興味・関心をもち、さまざまな静電気現象について理解しようとしている。
- 箔検電器を用いた実験に主体的に取り組んでいる。
- 電氣的な力が及ぶ空間である電場について、興味・関心を示している。
- 電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解しようとしている。
- デジタルマルチメータを用いて等電位線の作図及び考察に主体的に取り組んでいる。
- 身近な静電遮蔽などの事例に興味・関心を示し、理解している。
- 身近なコンデンサーの利用例について興味・関心をもち、コンデンサーの性質などを理解しようとしている。
- コンデンサーの性質を理解すべく、実験に主体的に取り組んでいる。

|               |  |   |   |
|---------------|--|---|---|
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>• コンデンサーの充電，放電のしかたについて正しく理解できる。</li> <li>• 実験を通して，平行板コンデンサーの極板面積や極板間隔の増減によって，蓄えられる電気容量の大きさはどのように変わるかを確かめることができる。</li> <li>• コンデンサーの放電実験から，コンデンサーの電気容量を求めることができる。</li> </ul>   |   |   |
| <p>第2章 電流</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できる。</li> <li>• オームの法則の意味をミクロの視点で理解できる。</li> <li>• 抵抗率からどのようなものが電流を流しにくいかを理解できる。</li> <li>• ジュール熱や電力・電力量について理解できる。</li> <li>• ガラスや火の取り扱いなど，実験上の注意点をよく理解し，安全に充分配慮しながら実験を行うことができる。</li> <li>• 抵抗を直列，並列に接続したとき，電流，電圧がどのような関係にあるかを理解している。また，これらのことを踏まえて，電圧計，電流計や分流器，倍率器の正しい使用方法についても理解できる。</li> <li>• 「起電力」と「電圧降下」の意味を理解しており，キルヒホッフの法則を正しく適用することができる。</li> <li>• 電池の起電力や内部抵抗の関係やホイートストンブリッジ，電位差計など未知の抵抗値や起電力を調べる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電圧降下とはどのようなことかを説明できる。</li> <li>• 温度と抵抗率の関係について理解し，説明することができる。</li> <li>• 電圧計に含まれる内部抵抗の大きさを大きくする理由を考察し，説明することができる。</li> <li>• 電池の起電力や内部抵抗について説明できる。</li> <li>• 測定する抵抗値の大きさによって，どのような電気回路がより正しい値を測定できるかを判断できる。</li> <li>• 半導体のキャリアについて理解し，真性半導体と不純物半導体の性質の違いを判断することができる。</li> <li>• 半導体ダイオードの整流作用について説明できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電流の流れ方は物質の種類やつなぎ方によってどのように異なるかということに興味をもっている。</li> <li>• 温度を変えたときの抵抗値の変化を観察・考察でき，実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 電気回路の各抵抗への電流が流れる量や電圧の加わり方がどのようになるかに興味を示している。</li> <li>• 電気回路に流れる電流や加わる電圧の測定や，考察に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 半導体が多く電子機器に利用されていることを知り，半導体に興味や関心をもつことができる。</li> </ul> |

|                  |   |  |   |
|------------------|---|--|---|
|                  | <p>方法を理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電球やコンデンサーなどを含む回路についての電圧，電流の変化について理解できる。</li> <li>• 電流計や電圧計などを適切に読み取り，得た情報からグラフ化することができる。</li> <li>• p型半導体，n型半導体とは何か，また半導体ダイオードやトランジスタのしくみとはたらきについて理解できる。</li> </ul>   |  |   |
| <p>第3章 電流と磁場</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 磁気量について，磁気力に関するクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを通して理解できる。</li> <li>• 直線電流，円形電流，ソレノイドの電流がつくる磁場について理解できる。</li> <li>• 方位磁針を使い，直線電流がつくる磁場の観察ができる。</li> <li>• フレミングの左手の法則について理解できる。</li> <li>• 「透磁率」，「比透磁率」，「磁束密度」，「磁束」などの物理量の意味を理解できる。</li> <li>• 平行電流が及ぼしあう力について，定量的・定性的に理解できる。</li> <li>• 電流が磁場から受ける力の実験において，アルミパイプを目的の方向に動かせるように磁場，電流の向きを調整できる。</li> <li>• 平行電流が及ぼしあう力を実験により確認ができる。また，電流を流したとき2本の平行導線の間隔がより大きく変化するよう工夫できる。</li> <li>• ローレンツ力について理解している。また，</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 磁石の性質について理解し，説明できる。</li> <li>• 直線電流や円形電流がつくる磁場について説明できる。</li> <li>• 定義文を踏まえて透磁率の導出ができる。</li> <li>• 本節で扱われている磁束密度と磁場の関係を説明できる。</li> <li>• フレミングの左手の法則を用いて，電流の流れている導線がどの向きに力を受けるかを判断することができる。</li> <li>• ローレンツ力とは何かを説明できる。</li> <li>• 磁場中を運動する荷電粒子の運動がどのようになるかを説明できる。</li> <li>• ある荷電粒子の記述について，これまでの学習内容を踏まえて考え，答えることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 磁石の性質に興味を示し，身近なものとの関連を考えることができる。</li> <li>• 導線に電流を流すと導線のまわりに磁場ができることに驚きと興味を示し，より深くこのことについて学ぼうとしている。</li> <li>• 直線電流によって生じる磁場の向きを観察でき，実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• モーターがなぜ動くのかに興味・関心を示し，電流が磁場から受ける力について理解しようとしている。</li> <li>• 電流が磁場から受ける力を観察でき，実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• オーロラなどのローレンツ力の例に興味・関心を示し，ローレンツ力について理解しようとしている。</li> </ul> |

|                         |   |   |  |
|-------------------------|---|---|--|
|                         | <p>ローレンツ力を応用した「ホール効果」や「サイクロトロン」についても、これらの原理（やしくみ）を理解できる。</p>  |   |  |
| <p>第4章<br/>電磁誘導と電磁波</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• さまざまな電磁誘導の事例について理解できる。また、関係式も適用できる。</li> <li>• 自己誘導や相互誘導などの関係式を適用できる。</li> <li>• コイルと抵抗を含む回路について理解できる。</li> <li>• 交流電圧の公式を理解できる。また、交流電流・交流電圧の実効値の意味を理解できる。</li> <li>• 変圧器の関係式を適用できる。</li> <li>• 交流電流、交流電圧の式を理解できる。また、これらには位相差が生じていることを理解できる。</li> <li>• コイル・コンデンサーのリアクタンスについて理解している。また、交流回路のインピーダンスについても理解できる。</li> <li>• 共振回路や電気振動についても理解できる。</li> <li>• 電磁波はその波長により、ふるまいが大きく異なり、波長により分類できることを理解できる。</li> <li>• 電磁波も一般的な波と同様、回折と干渉、反射、屈折の性質を示すことを理解できる。</li> <li>• 高温の物体からはその温度により決められる波長分布の熱放射の電磁波が出ていること理解できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 渦電流の各事例について考察、説明ができる。</li> <li>• レンツの法則について説明できる。</li> <li>• 電磁誘導の実験において、コイルの巻数、磁極の向き、速さなどを変えたときの誘導電流の変化からファラデーの電磁誘導の法則に關係式の妥当性について考察できる。</li> <li>• 自己誘導起電力の大きさを表す式を、ともにファラデーの電磁誘導の法則の式から説明することができる。</li> <li>• 自己誘導の現象を言葉で説明できる。</li> <li>• コイルに蓄えられるエネルギーと流れる電流の關係について説明できる。</li> <li>• コイルを回転させる速さと誘導起電力の大きさの關係を説明できる。</li> <li>• 「スピーカーと交流回路」を題材にコンデンサーとコイルを使ってどのように高音と低音のスピーカーを実現させるかを考察できる。</li> <li>• 抵抗、コイル、コンデンサーに流れる交流電流に対する位相差について説明できる。</li> <li>• 近い周波数の電磁波では、たがいに影響を受けやすいことを説明できる。</li> <li>• 電磁波の発生原理について説明できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 磁場を変化させると電流が生じることに興味・関心をもち、電磁誘導について理解しようとしている。</li> <li>• 電磁誘導や渦電流の実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 相互誘導の現象は変圧器とも関係している。このことから、自己誘導・相互誘導に学習する意欲・関心をもっている。</li> <li>• 身近にある自転車の発電機の原理はどのようなになっているかということに興味・関心をもっている。また、交流そのものについての知識をもととする意欲がある。</li> <li>• 交流回路では、コイルやコンデンサーで電圧・電流に位相差が生じることに興味をもち、交流回路について理解しようとしている。</li> <li>• 生活の中で利用しているさまざまな電磁波に興味をもち、電磁波の性質について理解しようとしている。</li> <li>• 紫外線の観察に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> |

|                            |  |  |   |
|----------------------------|--|--|---|
| <p>第5編 原子<br/>第1章 電子と光</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 放電（気体放電，真空放電）および陰極線について理解できる。</li> <li>• 電子の比電荷について，測定原理も含めて理解できる。</li> <li>• ミリカンの実験を踏まえた電気素量の導出について理解できる。</li> <li>• モデル実験により，電気素量の決定のしかたを理解できる。</li> <li>• 光子のエネルギーの式を適用できる。</li> <li>• 光電効果について理解できる。</li> <li>• 電子ボルトの単位を適用できる。”</li> <li>• 実験で，光電効果を確認できる。</li> <li>• X線の性質，特徴について理解できる。</li> <li>• X線回折について理解できる。</li> <li>• X線のコンプトン効果について理解できる。</li> <li>• 物質波について理解できる。</li> <li>• 電子線の回折・干渉について理解できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子の比電荷と電気素量の値から電子の質量をどのように求めるか説明できる。</li> <li>• 光電効果の原理を踏まえて，考え，説明することができる。</li> <li>• X線回折とX線のコンプトン効果について，波動性と粒子性を踏まえて説明できる。</li> <li>• 電子の波動性について説明できる。</li> <li>• 光の粒子性に着目して，人の肌の日焼けについて説明できる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子がどのようにして発見されたのか，また電子の電荷や質量はどのようにして測定されたのかに興味をもち，電子の性質について理解しようとしている。</li> <li>• ミリカンのモデル実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 光が粒子性をもつことに興味・関心を示し，光電効果の原理などを理解しようとしている。</li> <li>• 光電効果の実験に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 健康診断の検査などで使われているX線とはどのようなものであるかに関心を示し，理解しようとしている。</li> <li>• 電子顕微鏡は電子が波動としてふるまう性質を応用したものである。この，一見すると相反する波動性と粒子性をあわせもつ二重性について，興味・関心を示し，理解しようとしている。</li> </ul> |
| <p>第2章 原子と原子核</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>• スペクトルには，連続スペクトル，線スペクトルなどがあることを理解できる。</li> <li>• ボーア理論（量子条件・振動条件）について理解できる。</li> <li>• さまざまなスペクトルを観察できる。</li> <li>• 「原子・原子核」を表す記号から，原子核を構成する陽子・中性子の数を求めることができる。</li> <li>• 同位体について理解できる。また，同位体の存在比を元に原子量を求められることを理解できる。</li> <li>• 放射性崩壊によって，</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子のエネルギー準位について理解し，説明できる。</li> <li>• 原子核の構成から同位体どうしの相違点について説明できる。</li> <li>• <math>\alpha</math>線，<math>\beta</math>線，<math>\gamma</math>線の正体や，<math>\alpha</math>崩壊，<math>\beta</math>崩壊のしくみを説明できる。</li> <li>• 核反応の前後で原子核の質量の和が減少するとき，その質量差に相当するエネルギーが核エネルギーとして解放されることを定量的に説明できる。</li> <li>• ハドロンがどのような粒子で構成されているか，また，どのよう</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 原子と原子核の大きさの差から原子に興味・関心を示し，原子の構造とエネルギー準位についても理解しようとしている。</li> <li>• さまざまなスペクトルを観察に主体的に取り組んでいる。</li> <li>• 同じ元素記号なのに異なる原子核についての共通点と相違点に興味・関心をもち，原子核について理解しようとしている。</li> <li>• 「放射線」と「放射性物質」ではどのように意味が異なるかに，興味・関心を示し，放射線とその性質につい</li> </ul>   |

|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
|  | <p>原子核がどのように変化するか理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 半減期について理解できる。</li> <li>• 放射能と放射線の測定単位の定義を理解できる。</li> <li>• 放射性物質や液体窒素を用いて放射線の観察ができる。</li> <li>• さいころを使ったモデル実験で半減期のシミュレーションをし、半減期の意味を理解できる。</li> <li>• 核反応を式に表すことができる。</li> <li>• 結合エネルギーの定義を理解し、核反応によって放出されるエネルギーを求めることができる。</li> <li>• 核分裂反応・核融合反応について理解できる。</li> <li>• 素粒子の分類について理解できる。</li> <li>• さまざまなハドロンがどのクォークで構成されているか調べ、それらの電気量の値をクォークの種類より算出することができる。</li> </ul> | <p>な力がはたらいているかを説明できる。</p>  | <p>て理解しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 放射線の観察に主体的に取り組んでいる。また、サイコロを用いたモデル実験で半減期についての理解を深めようとしている。</li> <li>• 核エネルギーとは何か、どうしてあのような莫大な量のエネルギーが取り出せるのかに、興味・関心を示し、理解しようとしている。</li> <li>• 物質の最小単位は何か、また自然界にはどのような力が存在するのか、などに興味・関心を示し、理解しようとしている。</li> </ul> |
| <p>物理学が築く未来</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 扱われている題材と学習内容との関連について理解できる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最新の科学技術に、高校で学んだ物理学の知識がどのように活用されているかを説明できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「物理学が築く未来」を通読させた後、個々の生徒がどのようなところに疑問や関心を寄せ、どのようなところをより深く知りたいと思ったか、示すことができる。</li> </ul>   |
| <p>1年間の評価は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、思考・判断・表現を重視し総合的に判断して決定します。</p> |   |  |  |

### 3. 学習の計画と評価の観点

| 学期      | 月  | 学習内容   | 学習のねらい  | 評価の観点 |       |   | 考查範囲     |
|---------|----|--|---|-------|-------|---|----------|
|         |    |  |   | 知・技   | 思・判・表 | 主 |          |
| 1<br>学期 | 4  | 第1章 平面内の運動<br>平面内運動の速度・加速度<br>落体の運動              | ・放物運動における速度を水平成分と鉛直成分とに分解し、この運動の本質を理解する。  | ○     | ○     |   | 中間<br>考查 |
|         | 5  | 第2章 剛体<br>剛体にはたらく力のつりあい<br>剛体にはたらく力の合力と重心        | ・剛体にはたらく力の効果は作用線の位置によって決まることを理解し、さまざまな場合において合力を求めることができる。   |       |       |   |          |
|         | 6  | 第3章 運動量の保存<br>運動量と力積<br>運動量保存則<br>反発係数           | ・物体の運動量は力積を受けると変化することを理解する。<br>・さまざまな場面で運動量保存則が成り立つことを理解する。   | ○     | ○     | ○ | 期末<br>考查 |
|         | 7  | 第4章 円運動と万有引力<br>等速円運動 慣性力<br>単振動 万有引力            | ・等速円運動について理解するとともに、物体を異なる場所で観測するとき異なる運動として観測されることを認識する。<br>・等速円運動をする物体の正射影が単振動であることを理解する。<br>・ケプラーの法則と運動方程式から万有引力の公式が得られることを理解する。 | ○     | ○     |   |          |
| 2<br>学期 | 8  | 第1章 気体のエネルギーと状態変化<br>気体の法則<br>気体分子の運動<br>気体の状態変化 | ・ボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式が得られることを理解する。<br>・気体分子の運動を力学的に扱うことができる。   |       | ○     | ○ | 中間<br>考查 |
|         | 9  | 第1章 波の伝わり方<br>波と媒質の運動<br>正弦波の式 波の伝わり方            | ・波を振動の伝搬としてとらえる。  | ○     | ○     |   |          |
|         | 10 | 第2章 音の伝わり方<br>音の伝わり方<br>音のドップラー効果                | ・音を波としてとらえ、音の諸現象について理解する。   | ○     | ○     |   | 期末<br>考查 |
|         |    | 第3章 光<br>光の性質 レンズと鏡<br>光の干渉と回折                   | ・光を波としてとらえ、光の諸現象について理解する。<br>・反射や屈折、プリズムによる分散などを理解する。<br>・光の干渉と回折について理解する。  |       | ○     | ○ |          |
|         | 11 | 第1章 電場<br>静電気力 電場 電位<br>物質と電場 コンデンサー             | ・電気の反発力や引力についてのクーロンの法則を理解する。<br>・電場は静電気力によって定まることを理解する。<br>・電位は外力のする仕事によって定まることを理解する。<br>・物体が導体か不導体かによって現象が異なることを理解する。            | ○     | ○     | ○ |          |
|         | 12 | 第2章 電流<br>オームの法則 電流回路<br>半導体                     | ・オームの法則について理解する。<br>・陰極線の性質から、本体が電子であることを理解する。<br>・光電効果について理解する。  | ○     | ○     |   |          |

|             |   |   |   |   |   |   |
|-------------|---|---|---|---|---|---|
| 3<br>学<br>期 | 1 | 第3章 電流と電場<br>磁場 電流のつくる磁場<br>電流が磁場から受ける力<br>ローレンツカ                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>磁場の中に置かれた物体が磁化すること、および磁性体について理解する。</li> <li>電流が磁場から受ける力を微視的に考察し、運動する荷電粒子が磁場から受ける力について理解する。</li> </ul>  | ○ | ○ |   |
|             |   | 第4章 電磁誘導と電磁波<br>電磁誘導の法則<br>自己誘導と相互誘導<br>交流の発生 交流回路<br>電磁波                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>コイルに流れる電流が変化すると誘導起電力が生じ、その大きさは電流の変化の速さに比例することを理解する。</li> <li>コイルやコンデンサーのリアクタンスを理解する。</li> <li>交流は周波数が多いほどコイルに電流が流れにくくなり、コンデンサーはその逆で流れやすいことを理解する。</li> </ul>              | ○ | ○ | ○ |
|             | 2 | 第1章 電子と光<br>電子 光の粒子性 X線<br>龍氏の波動性   | <ul style="list-style-type: none"> <li>トムソンの実験とミリカンの実験とから、電子の比電荷、電荷、質量の各値がどのように得られたかを理解する。</li> <li>光の粒子性と対比しながら、電子に波動性があることを理解する。</li> </ul>   | ○ | ○ |   |
|             |   | 第2章 原子と原子核<br>原子の構造とエネルギー準位<br>原子核 放射線とその性質<br>核反応と核エネルギー 素粒子<br><br>物理学が築く未来 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ラザフォードの原子模型を説明し、どのような実験によりこの原子模型が正しいと判断したのかを理解する。</li> <li>原子核が陽子と中性子とからなること、また核力、同位体について理解する。</li> <li>これまでの学習内容が、現在における最先端の研究や産業などの基盤となっていることを、具体例を通して理解する。</li> </ul> | ○ |   | ○ |
| 期末考査        |   |   |   |   |   |   |

|     |
|-----|
| 体 育 |
|-----|

|       |                 |     |   |       |      |
|-------|-----------------|-----|---|-------|------|
| 教 科   | 保健体育            | 単位数 | 3 | 学科・学年 | 全科3年 |
| 使用教科書 | 新高等保健体育（大修館）    |     |   |       |      |
| 副教材等  | 新高等保健体育ノート（大修館） |     |   |       |      |

「 体 育 」の到達目標は

- (1) 各運動種目の特性を理解し、技術や戦術、審判法、競技会、記録会の行い方など、総合的な技能、ルールについて理解を深める。また、運動を科学的・理論的にとらえ、自身の動きや、仲間の動きを分析するための知識を身に着ける。体育理論では、運動やスポーツにおける知識や考え方を理解し、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解する。また、一人一人の違いや考えを大切にすることなどの意欲を育て、合理的、計画的な解決に向けた思考力、判断力を高め、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康、安全を確保し、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

### 1. 評価の観点の趣旨と方法

|          | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|----------|--|---|--|
| 評価の観点の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> <li>•各領域における基本的な技能や攻防の仕方、合理的な動き方を身に着け、記録や技に挑戦することができる。</li> <li>•簡易化されたルールから正規のルールへと、段階的に変化させ、各種競技の正規ルールを理解して試合を行うことができる。</li> <li>•身体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの汎用的な知識を習得している。</li> <li>•運動に関する領域と体育理論等との関連を理解し、各領域の特性や魅力を理解し、運動やスポーツが持つ価値や意義を理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>•自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。</li> <li>•他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、コミュニケーションを図ることができる。</li> <li>•自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた活動ができる。</li> <li>•各運動種目における技能の発揮場面において適切な技術を選択し、実践することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>•体育授業の実施にあたり、公正に取り組む、互いに協力する、参画する、自己の責任を果たすことができる。</li> <li>•一人ひとりの違いや特徴を理解し、それらを認め合い、高め合っている。</li> <li>•意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。</li> <li>•授業の目的、目標に対してそれらを達成しようとしている。</li> <li>•周囲と積極的に交流し、課題の解決のための意見交流を行うことができる。</li> <li>•準備や片付けに積極的に参加し、集団活動に前向きに取り組んでいる。</li> </ul> |

|       |   |   |   |
|-------|---|---|---|
| 評価の方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・知識理解テスト</li> <li>・演技発表会</li> <li>・試合</li> <li>・競技会</li> <li>・記録会</li> <li>・授業プリント、ノート</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント、ノート</li> <li>・話し合い活動</li> <li>・グループ活動</li> <li>・質問紙</li> <li>・演技発表会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・グループ活動</li> <li>・課題調査</li> <li>・意見発表</li> <li>・学習態度</li> </ul> |
|-------|---|---|---|

## 2. 評価の規準（及び年間の評定）

| 内容のまとめり(単元)  | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|--|--|---|---|
| A：体づくり運動<br>ア：体ほぐしの運動<br>◆集団行動、準備体操、柔軟体操、補強運動<br>◆スポーツテスト      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体を動かす楽しさや心地よさを味わい、関節や筋肉の動きに着目し、可動域や力強さを高める運動を行うことができる。</li> <li>・能率的で安全な集団としての行動の仕方を実践することができる。</li> <li>・スポーツテストを通じて、自身の運動能力、身体の成長、課題を実感し、課題の克服に努力することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。</li> <li>・自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。</li> <li>・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団での活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。</li> <li>・準備や片付けなどに積極的に参加している。</li> <li>・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。</li> </ul>  |
| C：陸上競技<br>◆100mH走<br>◆リレー競技<br>ア：短距離走・リレー<br>◆走り高跳び<br>オ：走り高跳び | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な走法や跳び方を習得している。</li> <li>・記録測定を通して、記録の向上が見てとれる。</li> <li>・ハードルを低く素早く越えながらインターバルをリズムカルにスピードを維持して走り、タイムを短縮できる。</li> <li>・技と技の繋がりを意識して演技を構成することができる。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。</li> <li>・自己の課題を把握し、記録を高めるための工夫、改善を行う。</li> <li>・ICTなどを活用して、フォームを確認し、自己の課題を改善するための思考力、判断力を養う。</li> <li>・安全に走るために、道具の管理や設置に注意を払い実施することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。</li> <li>・準備や片付けなどに積極的に参加している。</li> <li>・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。</li> <li>・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。</li> <li>・個人の能力に合わせた高さや距離の工夫を行い、主体的に練習に取り組むことができる。</li> </ul> |

|                                    |   |   |   |
|------------------------------------|---|---|---|
| <p>E：球技<br/>◆サッカー<br/>ア：ゴール型</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。</li> <li>・インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着け、活用することができる。</li> <li>・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。</li> <li>・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。</li> <li>・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。</li> <li>・ゲームなどを通して、各運動種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行うことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。</li> <li>・準備や片付けなどに積極的に参加している。</li> <li>・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。</li> <li>・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。</li> <li>・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。</li> </ul> |
| <p>E：球技<br/>◆バレーボール<br/>イ：ネット型</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。</li> <li>・仲間と連携した、拾う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着け、活用することができる。</li> <li>・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。</li> <li>・ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。</li> <li>・自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。</li> <li>・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。</li> <li>・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。</li> <li>・準備や片付けなどに積極的に参加している。</li> <li>・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。</li> <li>・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。</li> <li>・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。</li> </ul> |
| <p>E：球技<br/>◆バドミントン<br/>イ：ネット型</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。</li> <li>・相手のショットに対応</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。</li> </ul>  |

|                                       |   |   |  |
|---------------------------------------|---|---|--|
|                                       | <p>したショットを打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着け、活用することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。</li> <li>ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。</li> <li>他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。</li> <li>自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>準備や片付けなどに積極的に参加している。</li> <li>体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。</li> <li>意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。</li> <li>個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。</li> </ul>  |
| <p>E：球技<br/>◆バスケットボール<br/>ア：ゴール型</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着け、活用することができる。</li> <li>安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。</li> <li>ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。</li> <li>自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。</li> <li>他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。</li> <li>自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的な解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。</li> <li>準備や片付けなどに積極的に参加している。</li> <li>体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。</li> <li>意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。</li> <li>個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。</li> </ul> |
| <p>E：球技<br/>◆ソフトボール<br/>ウ：ベースボール型</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>身体全体を使ってバットを振りぬぎ、守備スペースの空いた方向へボールを打ち返すことができる。</li> <li>打球のバウンドやコースに応じてタイミングをボールを捕球し、塁上の走者に応じて投げる方向を変えることができる。</li> <li>仲間の走者に合わせて、塁を進んだり戻った</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。</li> <li>自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。</li> <li>他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。</li> <li>準備や片付けなどに積極的に参加している。</li> <li>体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。</li> <li>意欲的に学習に取り組</li> </ul>  |

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>りすることができる。</li> <li>・ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的な解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>み、健康安全を確保した運動を実践している。</li> <li>・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。</li> </ul>   |
| <p>H：体育理論<br/>第3章<br/>豊かなスポーツライフの設計</p> <p>◆生涯スポーツの見方・考え方<br/>◆ライフスタイルとスポーツの楽しみ方<br/>◆スポーツ推進のための施策と課題<br/>◆スポーツで未来を創る</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジャー社会におけるスポーツの役割を理解し、各ステージライフに応じた関わり方や行い方ができる。</li> <li>・各ライフステージやライフスタイルにおけるスポーツの楽しみ方を学び、実践する。</li> <li>・生涯にわたりマイスポーツライフの設計の仕方を学び、計画する。</li> <li>・スポーツ振興法やスポーツ基本法といった施策について理解し、推進のための課題を見出す。</li> <li>・地域におけるスポーツの関わり方のサポートができる。</li> <li>・スポーツが持続可能なものとなっていくような考え方を身につける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジャー社会におけるスポーツの役割について生涯スポーツの視点で考えることができる。</li> <li>・各ライフステージやライフスタイルにあったスポーツの関わり方や豊かなスポーツライフを想像して、計画することができる。</li> <li>・スポーツ推進のための施策の歴史や取り組みを理解し、現在できる活動を見つけ出すことができる。</li> <li>・スポーツで豊かな「未来」を創るために必要なことを仲間と考え、実践できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学習に取り組み、スポーツの特徴や特性について理解しようとしている。</li> <li>・新体力テストの結果を受けて自身の課題や今後の目標を立てることができる。</li> <li>・意欲的に学習に取り組み、体力や技能、トレーニング方法について理解しようとしている。</li> <li>・「する・見る・支える」等の様々なスポーツへの向き合い方を理解しようとしている。</li> </ul> |
| <p>●体育授業に際しては、知識・技能に関する評価観点を重視して評価を行っていく。また、安全配慮に関する姿勢やルール等を守り、他者と共にスポーツを楽しもうとするなどの行動面に関しても評価の対象とする。</p> <p>●知識・技能に関しては、年間を通じてスキルテストや各種演技、実演を通して技能の評価を行っていく。知識面に関しては小テストなどを通して評価する。</p> <p>●思考・判断・表現に関しては、各単元で他者との交流やチーム単位の活動を通して意見交流などを行い、作戦、戦術、練習方法などを通して評価する。</p> <p>●主体的に学習に取り組む態度については、準備や片付け、学習に取り組む様子などを通して、総合的に判断し評価する。</p> |   |   |  |

### 3. 学習の計画と評価の観点

| 学期      | 月      | 学習内容   | 学習のねらい  | 評価の観点   |       |   | 調査範囲 |  |
|---------|--------|--|---|---|-------|---|------|--|
|         |        |  |   | 知・技   | 思・判・表 | 主 |      |  |
| 1<br>学期 | 4<br>月 | ◆R8年度シラバス<br>◆R8年度授業計画   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション。</li> <li>・授業の実施方法について確認する。</li> <li>・授業実施にあたり、用具や施設の利用方法について確認する。</li> </ul>   |   |       |   | ○    |  |
|         |        | A：体づくり運動<br><br>◆体づくり運動<br>ア：体ほぐしの運動<br>◆集団行動、準備体操、柔軟体操、補強運動<br>◆スポーツテスト | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体を動かす楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進や体力の向上を目指した運動を実施する。</li> <li>・仲間との活動を通して、交流を深める。</li> <li>・関節や筋肉の動きに着目し、可動域や力強さを高める運動を実施する。</li> <li>・スポーツテストを通して、自身の運動能力、身体の成長を確認、実感する。</li> <li>・能率的で安全な集団としての行動の仕方を身に着ける。</li> </ul>  |   | ○     | ○ |      |  |
|         | 5<br>月 | E：球技<br><br>◆バレーボール<br>イ：ネット型  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。</li> <li>・ネット型競技では、仲間と連携した、拾う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着ける。</li> <li>・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。</li> <li>・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。</li> <li>・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。</li> <li>・ゲームの企画や運営、審判を行う。</li> </ul> | ○   | ○     | ○ |      |  |
|         |        | 6<br>月   | E：球技<br><br>◆ソフトボール<br>ウ：ベースボール型  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。</li> <li>・ベースボール型競技では、状況に応じたバット操作と守備、安定したボール操作をしながら攻防を楽しむ。</li> <li>・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。</li> <li>・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。</li> <li>・ゲームの企画や運営、審判を行う。</li> </ul> | ○     | ○ | ○    |  |
|         |        |  | 7<br>月  |   |       |   |      |  |

|             |         |  |   |   |   |   |
|-------------|---------|--|---|---|---|---|
| 2<br>学<br>期 | 8<br>月  | H：体育理論<br>第3章<br>豊かなスポーツライフの<br>設計<br>◆生涯スポーツの味方・考<br>え方<br>◆ライフスタイルとスポ<br>ーツの楽しみ方 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯スポーツやライフスタイルに合わせたスポーツの楽しみ方の例として、グループごとに運動計画を立て、目標達成のための練習やトレーニング計画を実践する。</li> <li>豊かなスポーツライフの実現のために必要なことは何か、実践して気づいたことをグループごとにまとめて発表する。</li> </ul>   | ○ | ○ | ○ |
|             | 9<br>月  | E：球技<br>◆サッカー<br>ア：ゴール型<br><br><女子><br>◆バドミントン<br>イ：ネット型                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。</li> <li>ゴール型競技では、インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着ける。</li> <li>ネット型競技では、仲間と連携した、捨う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着ける。</li> <li>安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。</li> <li>ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。</li> <li>個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。</li> <li>ゲームの企画や運営、審判を行う。</li> </ul> | ○ | ○ | ○ |
|             | 10<br>月 |  |   |   |   |   |
|             | 11<br>月 | C：陸上競技<br>◆100mH走<br>◆リレー競技<br>ア：短距離走・リレー<br>◆走り高跳び<br>オ：走り高跳び                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題を把握し、記録を高めるための走法や跳び方を工夫、改善を行う。</li> <li>ICTなどを活用して、フォームを確認し、自己の課題を理解、改善するための思考力、判断力を養う。</li> <li>安全に練習をするために、仲間で協力して道具の管理や設置し、難易度と能力が伴っているか総合的に判断できるようになる。</li> </ul>   | ○ | ○ | ○ |
| 3<br>学<br>期 | 12<br>月 | H：体育理論<br>第3章<br>豊かなスポーツライフの<br>設計<br>◆スポーツ推進のための<br>施策と課題<br>◆スポーツで未来を創る          | <ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストの結果をもとに、自分の体力的長所や短所を理解し、短所の改善のための練習方法などについての調べ学習を実施する。</li> <li>日本で行われてきたスポーツ振興の施策の歴史を理解する。</li> <li>地域の環境やスポーツ施設のバランスの取れた運営について理解する。</li> <li>環境保護に向けた様々な持続可能な開発について理解する。</li> </ul>  | ○ | ○ | ○ |

|  |               |                             |  |   |   |   |  |
|--|---------------|-----------------------------|--|---|---|---|--|
|  | 1月<br>・<br>2月 | E：球技<br>◆バスケットボール<br>ア：ゴール型 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。</li> <li>• ゴール型競技では、インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着ける。</li> <li>• 安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。</li> <li>• ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。</li> <li>• 個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。</li> <li>• ゲームの企画や運営、審判を行う。</li> </ul> | ○ | ○ | ○ |  |
|--|---------------|-----------------------------|--|---|---|---|--|

## 英語コミュニケーションⅡ

|       |   |     |   |       |      |
|-------|---|-----|---|-------|------|
| 教科    | 外国語（英語）                                   | 単位数 | 2 | 学科・学年 | 全科3年 |
| 使用教科書 | All Aboard! English Communication Ⅱ（東京書籍） |     |   |       |      |
| 副教材等  | 英単語VALUE1000（数研出版）                        |     |   |       |      |

## 「英語コミュニケーションⅡ」の到達目標は

日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、

- (1) 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- (2) 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- (3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
- (4) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
- (5) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

## 1. 評価の観点の趣旨と方法

|          | 知識・技能（技術）  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|----------|--|---|---|
| 評価の観点の趣旨 | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 日常的・社会的な話題について聞き取ったり、読み取ったりするため、また相手に伝えるための語句・文法を理解している。</li> <li>② 日常的・社会的な話題について聞き取ったり読み取ったりすることができる。</li> <li>③ 日常的・社会的な話題について情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝えることができる。</li> <li>④ 日常的・社会的な話題について、話して伝え合うことができる。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話し手・書き手の意図を把握している。</li> <li>② 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話したり、書いたりして伝えている。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話し手・書き手の意図を把握しようとしている。</li> <li>② 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話したり、書いたりして伝えようとしている。</li> </ol> |
| 評価の方法    | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業中の音読・言語活動への取り組み状況を観察する。</li> <li>② 本文の内容について読んだり、聞いたりしたことの理解度を量る定期考査や小テストを実施する。</li> <li>③ 語句や文法事項及び表現の理解度を量る筆記および口頭によるテストを実施する。</li> </ol>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業中の音読・言語活動を教員または生徒同士が評価する。</li> <li>② 本文の内容について理解しているか、また、自分の考えを英語で表現できるかを量る定期考査や口頭テストを実施する。</li> </ol>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業中の音読・言語活動を教員または生徒同士が評価する。</li> <li>② 課題の内容や提出状況を評価する。</li> </ol>   |

## 2. 評価の規準（及び年間の評定）

| 内容のまとめ(単元)                                    | 知識・技能（技術）  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|--|---|
| Word Box 4<br>Various Jobs                    | [知識]仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解している。<br>[技能]仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いて、将来つきたい職業とその理由について書いて伝える技能を身につけている。  | 仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いて、将来つきたい職業とその理由について、的確に書いて伝えている。   | 仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いて、将来つきたい職業とその理由について、的確に書いて伝えようとしている。  |
| Lesson 7<br>Over the Wall<br>アートで世界をつなぐ       | [知識]関係副詞 <b>where</b> 、 <b>when</b> を用いた文の形・意味を理解している。また、世界中で壁画を描く活動について学び、外国の人々と交流する方法について調べた事柄を整理・理解している。<br>[技能]関係副詞 <b>where</b> 、 <b>when</b> の理解をもとに、世界中で壁画を描く活動について学び、外国の人々と交流する方法について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身につけている。 | 世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、外国の人々と交流する方法について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。 | 世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、外国の人々と交流する方法について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 |
| Communication 2<br>入国審査                       | [知識]海外旅行先の空港で入国審査の手続きをするにあたり、旅行の目的や滞在日数などを申告する仕方を理解している。<br>[技能]海外旅行先の空港で入国審査の手続きをするにあたり、旅行の目的や滞在日数などを申告することができる技能を身につけている。  | 海外旅行先の空港で入国審査の手続きをする状況で、必要な情報を伝えたり聞き取ったりして、相手が理解しやすいように申告している。   | 海外旅行先の空港で入国審査の手続きをする状況で、必要な情報を伝えたり聞き取ったりして、相手が理解しやすいように申告しようとしている。  |
| Getting the Necessary Information<br>ロンドンの地下鉄 | [知識]目的地までの行き方を案内するにあたり、地下鉄の路線図を見ながら説明する仕方を理解している。<br>[技能]目的地までの行き方を案内するにあたり、地下鉄の路線図を見ながら説明できる技能を   | 目的地までの行き方を案内するにあたり、地下鉄の路線図を見ながら、相手が理解しやすいような案内をしている。   | 目的地までの行き方を案内するにあたり、地下鉄の路線図を見ながら、相手が理解しやすいような案内をしようとしている。  |

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
|   | 身につけている。   |   |  |
| Lesson 8<br>Inspiration from<br>Nature<br>自然のデザインに学ぶ              | <p>[知識]知覚動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、生物模倣について学び、自然界のデザインをヒントに開発された製品について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>[技能]知覚動詞の理解をもとに、生物模倣について学び、自然界のデザインをヒントに開発された製品について自分で調べた事柄を用いて紹介記事を作成し、情報などを話して伝え合う技能を身につけている。</p> | 生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自然界のデザインをヒントに開発された製品について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報などを話したり書いたりして伝え合っている。     | 生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自然界のデザインをヒントに開発された製品について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。     |
| 文法のまとめ 3  | <p>[知識]「動詞の目的語になる if 節」「関係副詞」「知覚動詞」を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能]「動詞の目的語になる if 節」「関係副詞」「知覚動詞」を用いて、相手とコミュニケーションできる技能を身につけている。</p>  | 「動詞の目的語になる if 節」「関係副詞」「知覚動詞」を用いて、相手とコミュニケーションができています。   | 「動詞の目的語になる if 節」「関係副詞」「知覚動詞」を用いて、相手とコミュニケーションしようとしている。   |
| Lesson 9<br>The Bitter Truth<br>behind Chocolate<br>甘いチョコレートの苦い現実 | <p>[知識]使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>[技能]使役動詞の理解をもとに、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身につけている。</p>  | チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。 | チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 |
| エッセイライティング  | [知識]英語でエッセイを書くために必要な情報や感想・意見などをまとめて、それらをエッセイの構成要素として使うことを理解している。   | 興味をもっている社会問題に関して、必要な情報や感想・意見などを英語のエッセイの流れに構成して、読む者が理解しやすいようなエッセ   | 興味をもっている社会問題に関して、必要な情報や感想・意見などを英語のエッセイの流れに構成して、読む者が理解しやすいようなエッセ  |

|  |   |   |  |
|--|---|---|--|
|  | <p>[技能]英語でエッセイを書くために必要な情報や感想・意見などをまとめて、それらをエッセイの構成要素として使う技能を身につけている。</p>  | イを書いている。  | イを書こうとしている。  |
| Extra Target 2<br>○○ならいいのに...          | <p>[知識]仮定法過去〈I wish＋過去形の文〉を用いた文の形・意味を理解している。</p> <p>[技能]実現できそうにない願望について、「○○ならいいのに...」と、「仮定法過去」を用いて的確に伝える技能を身につけている。</p>   | 実現できそうにない願望について、「○○ならいいのに...」と、「仮定法過去」を用いて的確に伝えている。   | 実現できそうにない願望について、「○○ならいいのに...」と、「仮定法過去」を用いて的確に伝えようとしている。  |
| Lesson 10<br>Fighting Angel<br>ナイチンゲール | <p>[知識]分詞構文を用いた文の形・意味を理解している。また、ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>[技能]分詞構文の理解をもとに、ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身につけている。</p> | 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、人を助ける職業について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。 | 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、人を助ける職業について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 |
| 文法のまとめ 4                               | <p>[知識]「使役動詞」「分詞構文」を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能]「使役動詞」「分詞構文」を用いて、相手とコミュニケーションできる技能を身につけている。</p>   | 「使役動詞」「分詞構文」を用いて、相手とコミュニケーションができています。   | 「使役動詞」「分詞構文」を用いて、相手とコミュニケーションしようとしている。   |
| Reading 2<br>Bear's Pie                | <p>[知識]自分たちで結末を考えた、英語で書かれた Bear's Pie の内容を理解している。また、登場人物の気持ちが聞いている者に伝わるように、朗読する知識を身につけている。</p> <p>[技能]英語で書かれた Bear's Pie の内容を読み取り、物語の結末を考</p>                                   | 英語で書かれた Bear's Pie の内容に関する問いに英語で答えている。また、英語で書かれた Bear's Pie を、登場人物の気持ちが聞いている者に伝わりやすいように、朗読する要点を捉えている。                     | 英語で書かれた Bear's Pie の内容に関する問いに英語で答えようとしている。また、英語で書かれた Bear's Pie を、登場人物の気持ちが聞いている者に伝わりやすいように、朗読する要点を捉えようとしている。                |

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
|   | え、配役を決めて、朗読劇を演じる技能を身につけている。  |   |  |
| Word Box 5<br>A Day in English: Part 2                | [知識]平日の生活でよく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解している。<br>[技能]自分が何時ころに何をするかについて、平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書いて、それを発表する技能を身につけている。 | 自分が何時ころに何をするかについて、平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書いて、適切な発表を行っている。 | 自分が何時ころに何をするかについて、平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書いて、適切な発表を行おうとしている。 |
| 1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、思考・判断・表現を重視し総合的に判断して決定します。 |  |   |  |

### 3、学習の計画と評価の観点

| 学期      | 月  | 学習内容   | 学習のねらい  | 評価の観点 |       |   | 考查範囲     |
|---------|----|--|---|-------|-------|---|----------|
|         |    |  |   | 知・技   | 思・判・表 | 主 |          |
| 1<br>学期 | 4  | Word Box 4<br>Various Jobs                       | 仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いて、将来つきたい職業とその理由について、的確に書いて伝えることができる。                | ○     | ○     | ○ | 中間<br>考查 |
|         | 5  | Lesson 7<br>Over the Wall                        | 壁画を描く活動に関して書かれた文章について学習したことをもとに、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合うことができる。               | ○     | ○     | ○ |          |
|         | 6  | Communication 2                                  | 入国審査の手続きをする状況で、必要な情報を伝えたり聞き取ったりして、相手が理解しやすいように申告することができる。                   | ○     | ○     | ○ | 期末<br>考查 |
| 2<br>学期 | 7  | Getting the Necessary<br>Information             | 目的地までの行き方を案内するにあたり、地下鉄の路線図を見ながら、相手が理解しやすいような案内をすることができる。                    | ○     | ○     | ○ | 中間<br>考查 |
|         | 8  | 文法のまとめ3  | 「動詞の目的語になるif節」「関係副詞」「知覚動詞」を用いて、相手とコミュニケーションができています。                         | ○     | ○     | ○ |          |
|         | 9  | Lesson 8<br>Inspiration from Nature              | 生物模倣についての授業に関して書かれた文章について学んだことをもとに、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合うことができる。            | ○     | ○     | ○ |          |
|         | 10 | Lesson 9<br>The Bitter Truth<br>behind Chocolate | チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、学習したことをもとに、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合うことができる。 | ○     | ○     | ○ | 期末<br>考查 |
|         | 11 | エッセイライティング                                       | 興味をもっている社会問題に関して、必要な情報や感想・意見などを英語のエッセイの流れに構成して、読む者が理解しやすいようなエッセイを書くことができる。  | ○     | ○     | ○ |          |

|             |    |                                    |   |   |   |   |                       |
|-------------|----|------------------------------------|---|---|---|---|-----------------------|
| 3<br>学<br>期 | 12 | Extra Target 2                     | 実現できそうにない願望について、「〇〇ならいいのに…」と、「仮定法過去」を用いて的確に伝えている。   | ○ | ○ | ○ | 学<br>年<br>末<br>考<br>査 |
|             | 1  | Lesson 10<br>Fighting Angel        | 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について学習したことをもとに、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合うことができる。   | ○ | ○ | ○ |                       |
|             | 2  | 文法のまとめ4<br>Reading 2<br>Bear's Pie | 「使役動詞」「分詞構文」を用いて、相手とコミュニケーションができています。<br>英語で書かれたBear's Pieの内容に関する問いに英語で答えることができる。また、登場人物の気持ちが聞いている者に伝わりやすいように、朗読することができる。 | ○ | ○ | ○ |                       |